

胸部水平断標本の図譜

吉井 致, 池田 一夫, 井上 普文, 田中 均, 梅田 直人, 松島 敏春*

解剖体で胸部水平断標本を作製し, その鋳型より精密なポリエステル樹脂標本を作りそれをもとに詳細な図譜を作製した。
(昭和62年10月13日採用)

Atlas of Thoracic Transverse Specimens

Itaru Yoshii, Kazuo Ikeda, Takafumi Inoue, Hitoshi Tanaka, Naoto Umeda and Toshiharu Matsushima

We have tried to present as detailed an atlas of transverse sectional anatomy as possible employing transverse resinous molding specimens of the cadaver.

(Accepted on October 13, 1987) *Kawasaki Igakkaishi* 14(2): 159-172, 1988

Key Words ① Atlas ② Transverse sectional anatomy

はじめに

近年, computed tomography, NMR-CT など医療機器の進歩及びその普及により, 身体各部の断層像の読影診断が診断上不可欠な手段となっている。それに伴い従来の解剖学的知識から更にCT画像に相当した体幹断面における詳細な解剖学的知識が要求されている。しかし, 各断層像読影の基礎となる成書^{1), 2)}はあるが, それらは遺体を使用した断面写真とその図譜を記載したもので未固定冷凍遺体を電動板状鋸でスライスした標本の切断面であり, 細部においては不明瞭な点も見うけられ十分なものとは言えない。また, 教育用標本模型も利用価値の高いものであるが既存の人体標本では正確さを欠きCT画像等の断層像読影に際し参考にしたがたい。

著者らは, 臨床と医学教育の補助として利用

価値の高い正確な胸部水平断の図譜を作製するため, 解剖体の水平断標本を作りその精巧な鋳型樹脂標本を製作し, それをもとにした正確な胸部横断解剖図譜を作製した。なお, 鋳型標本作製は京都科学標本株式会社に依頼した。

材料及び方法

材料は, 川崎医科大学解剖体, 遺体番号245, 年齢77歳, 男性, 死因: 急性循環不全を使用した。

胸部水平断には替刃脳刀(替刃 No.325, フェザー工業株式会社)と鋸を使用し, 第1胸椎から第9胸椎間を厚さ約2cmで切断した。切断部位は第1胸椎上部, 第2胸椎下部, 第4胸椎上部, 第5・第6胸椎間, 第7胸椎上部, 第7・第8胸椎間, 第9胸椎上部で行った。

川崎医科大学 第二解剖学教室
〒701-01 倉敷市松島577

* 同 呼吸器内科

Department of Anatomy, Kawasaki Medical School:
577 Matsushima, Kurashiki, Okayama, 701-01 Japan
Division of Respiratory Diseases, Department of
Medicine

ポリエステル樹脂鑄型標本の作製

(1) 実物水平断標本作製後、アルギン酸(ハイテクニコール, 而至歯科工業株式会社)で陰型をとる。

(2) 次にこの陰型より石膏で原型を作製する。

(3) 石膏の原型よりシリコーンゴム(東芝シリコーン株式会社)で陰型をとる。

(4) シリコーンゴム陰型にポリエステル樹脂(ポリエステル G-804P, 日本触媒化学工業株式会社)を流しこみポリエステル樹脂標本作製する。

(5) 無色の標本に彩色を施す。(肺動脈は赤, 肺静脈は青, 気管支は白で彩色した。)

図譜の作製

切断面で各器官を同定し各標本断面の詳細な

図譜を作製した。特に神経や細い血管の同定には慎重を期し縦隔の各器官の同定を正確にした。また, 肺の断面における肺動脈・肺静脈・気管支の分枝の同定まで正確に行った。次いで各標本のソフテックス立体写真を作製し, X線像との比較を可能にした。

標本と図譜

作製した各断面の標本と図譜は **Figure 1~12** に示すとおりである。

なお, 製作した樹脂標本とその図譜は, 川崎学園現代医学教育博物館に展示してある。

稿を終えるにあたり, 御指導頂いた川崎医科大学解剖学教授 池田 章先生と同大学放射線医学教室助教授 梶原康正先生に感謝いたします。

文 献

- 1) 川原群大: 図説人体局所解剖学 第3巻 胸部. 東京, 医歯薬出版株式会社. 1981
- 2) Lyons, E. A.: A color atlas of sectional anatomy. Saint Louis, The C. V. Mosby Company. 1978

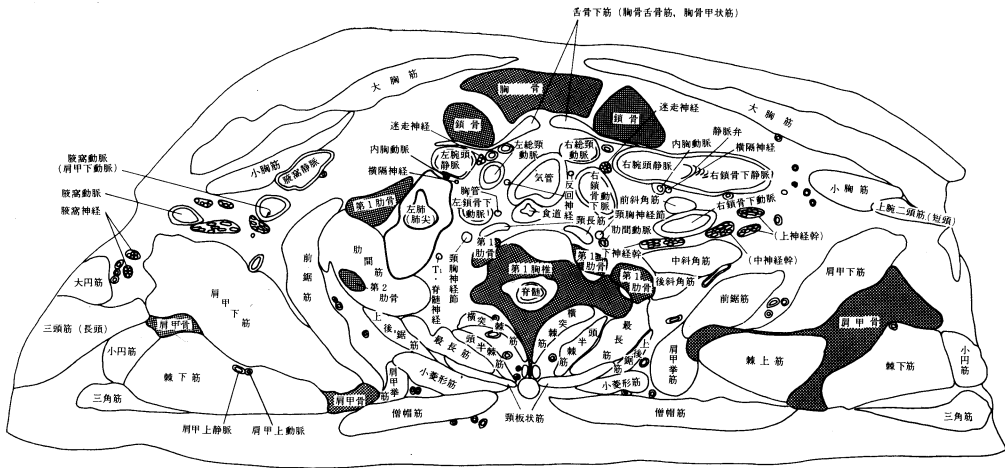
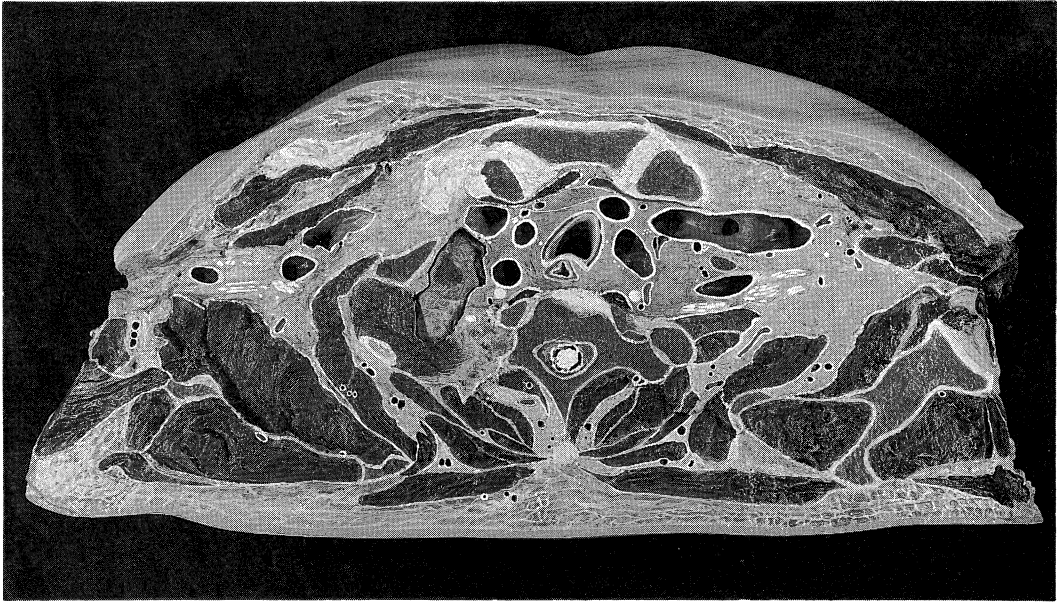


Fig. 1. A cross section of the trunk at the level of the upper part of the first thoracic vertebra, as seen from above.

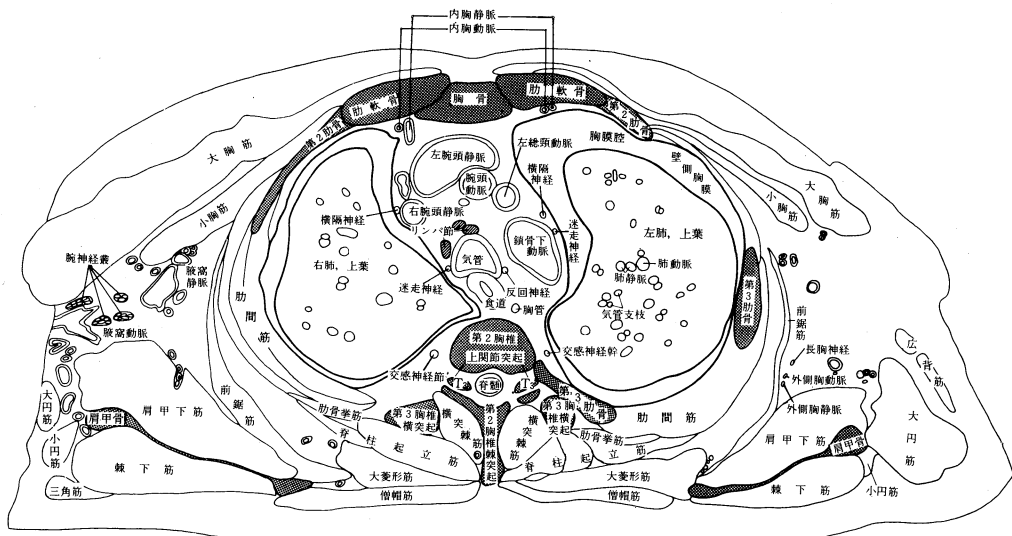


Fig. 2. A cross section of the trunk at the level of the lower part of the second thoracic vertebra, as seen from below.

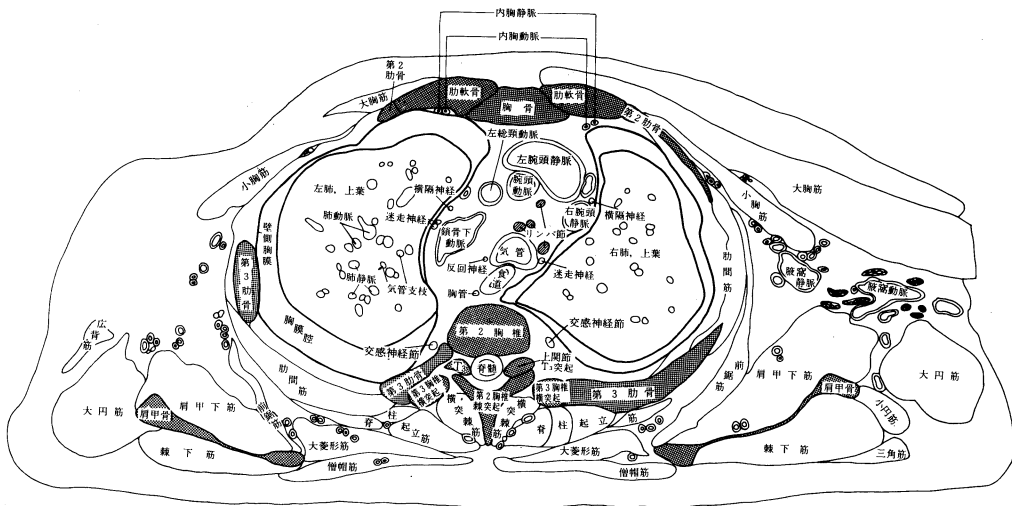


Fig. 3. A cross section of the trunk at the level of the lower part of the second thoracic vertebra, as seen from above.

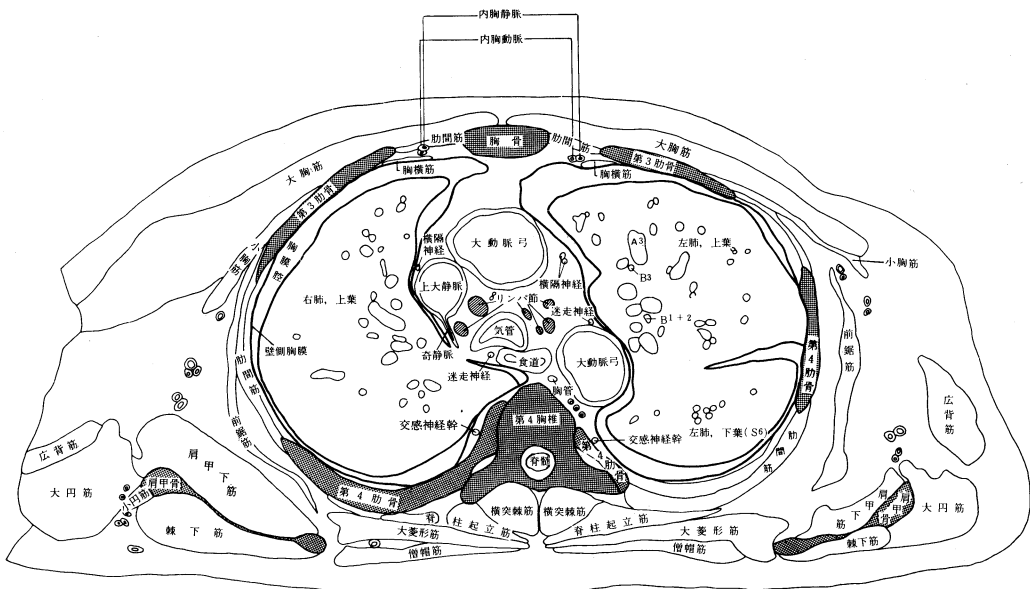
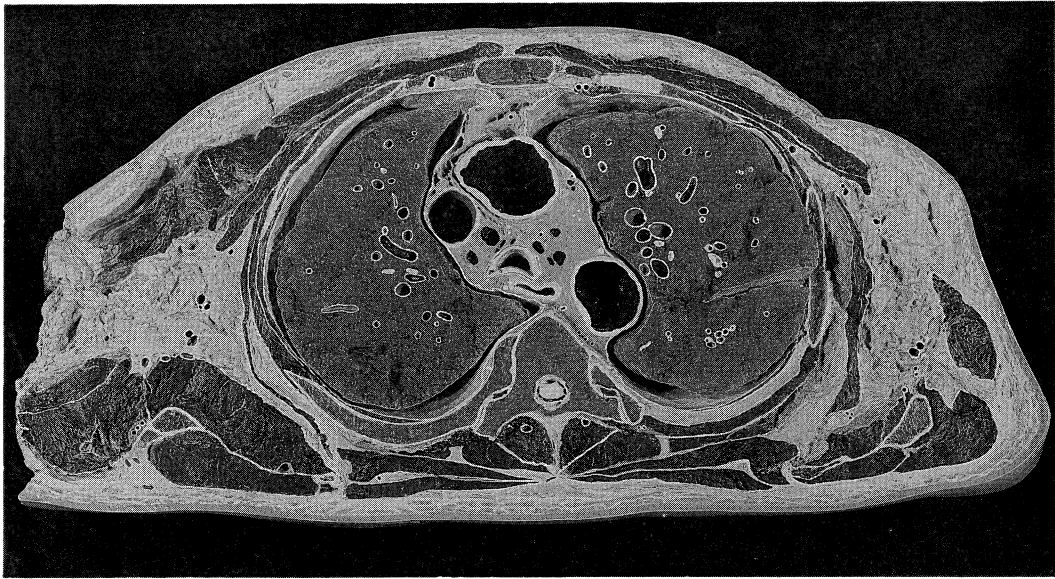


Fig. 4. A cross section of the trunk at the level of the upper part of the fourth thoracic vertebra, as seen from below.

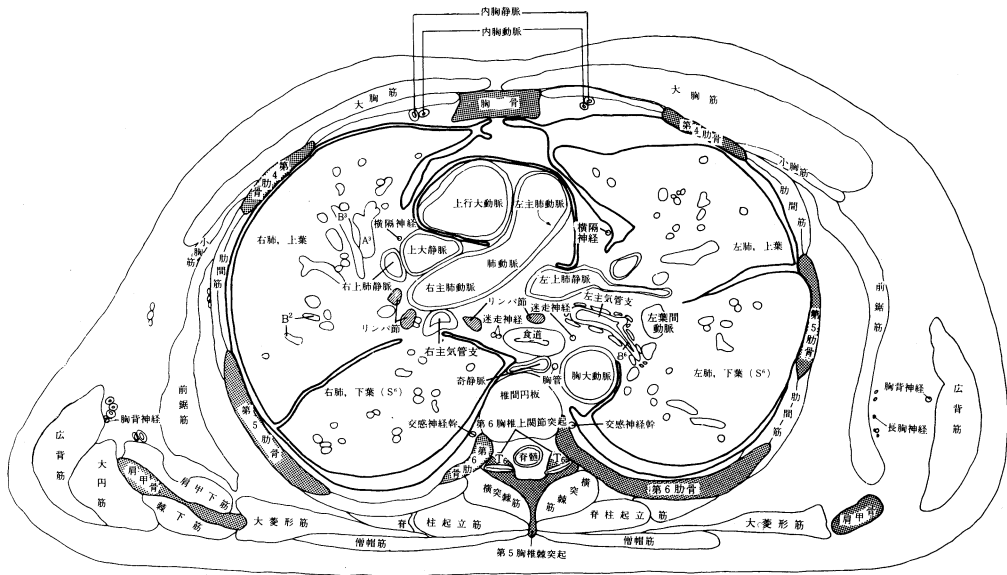
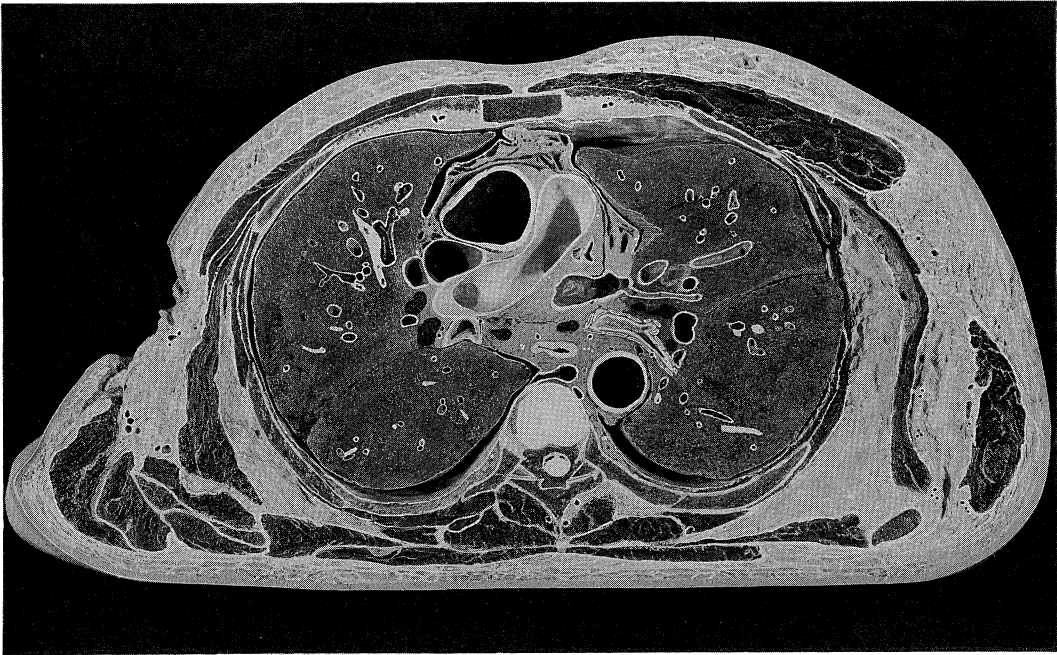


Fig. 6. A cross section of the trunk at the disk between the fifth and sixth thoracic vertebrae, as seen from below.

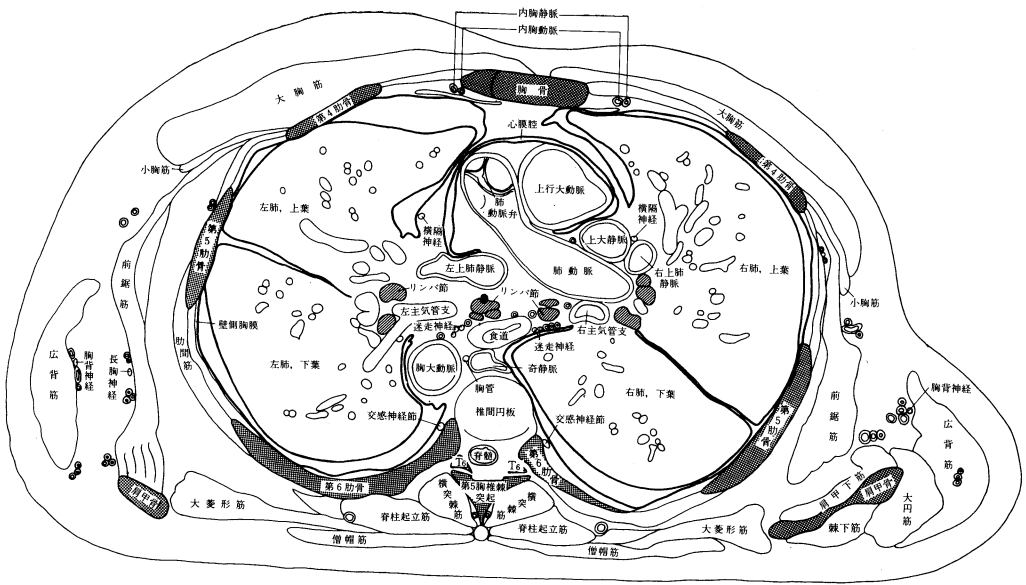
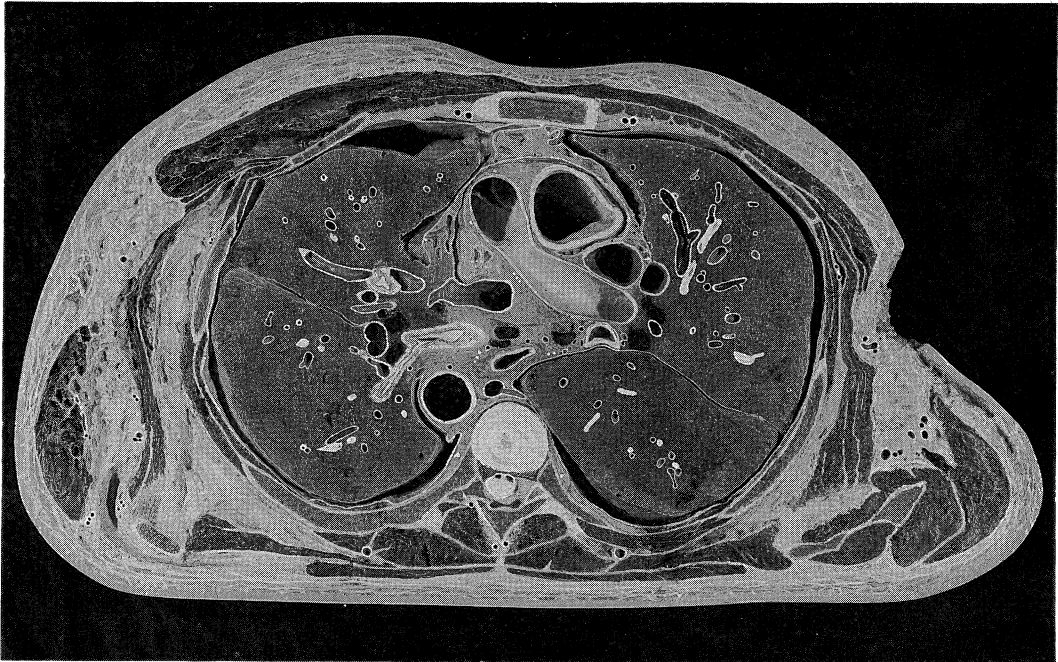


Fig. 7. A cross section of the trunk at the disk between the fifth and sixth thoracic vertebrae, as seen from above.

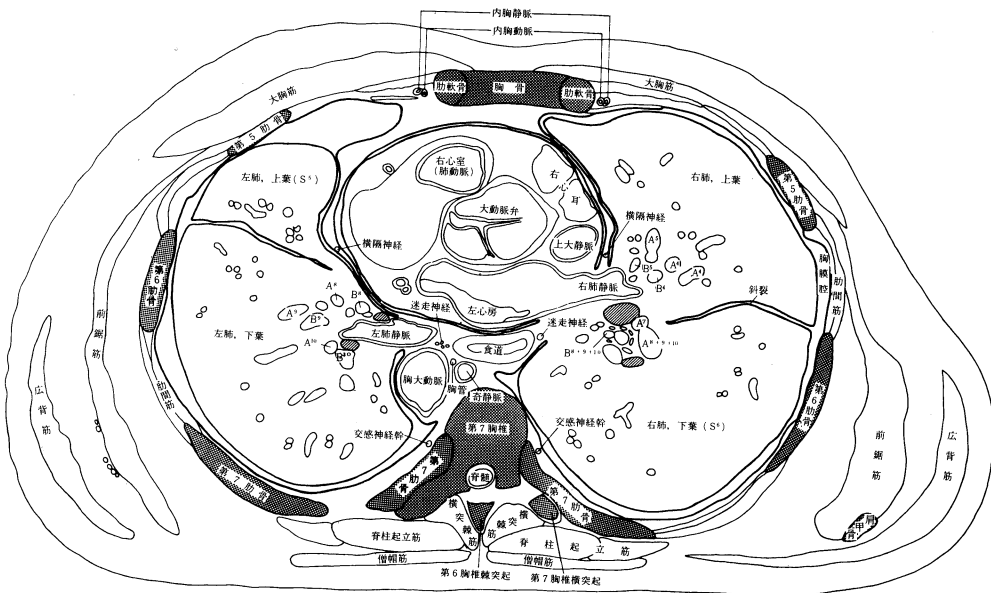
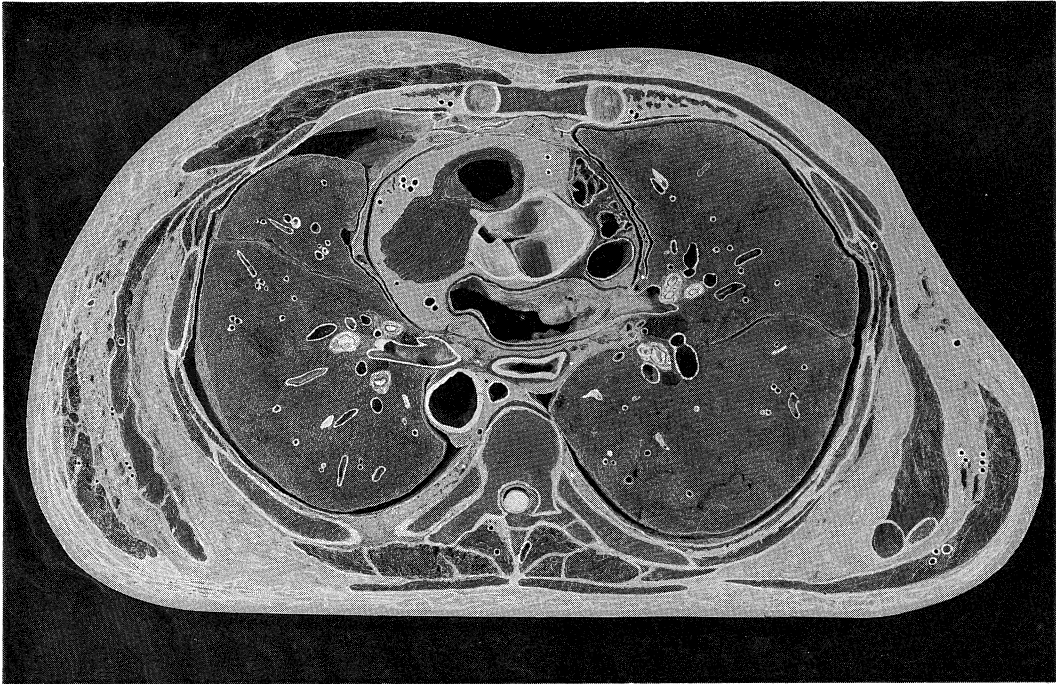


Fig. 9. A cross section of the trunk at the level of the upper part of the seventh thoracic vertebra, as seen from above.

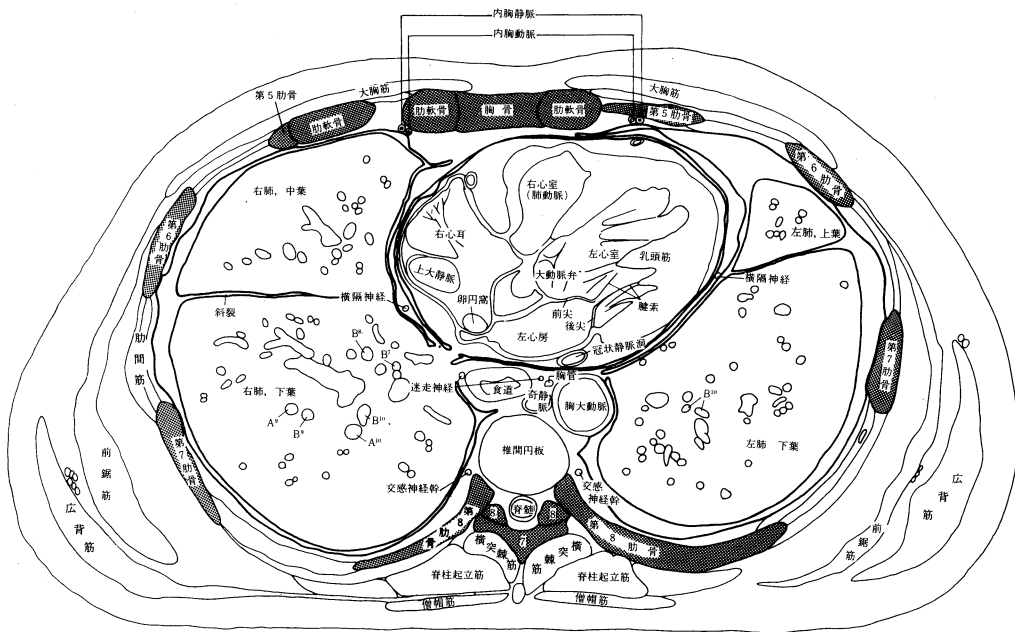
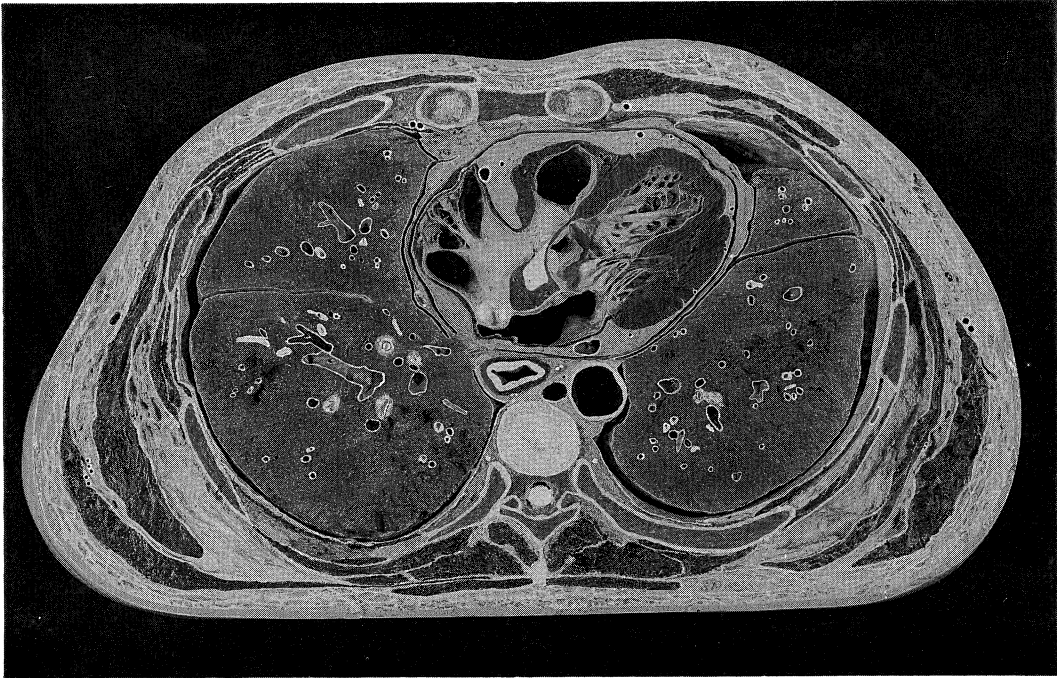


Fig. 10. A cross section of the trunk at the disk between the seventh and eighth thoracic vertebrae, as seen from below.

